

つどい

第11号

発行日：令和5年8月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。
今回の「つどい第11号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
 - 野木町煉瓦窯のおはなしその⑪
 - 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑩
- 【野木ホフマン館の近況と事業】**

今年は「春フェスタ」が町制施行60周年記念として、4年ぶりに5月13日（土）・14日（日）に開催されました。天候が心配されましたが、多くの方にご来場いただき、煉瓦窯見学ツアー、模擬店、石窯料理体験、レンガ粘土体験、多肉植物寄せ植えなど各ワークショップとも賑わいを見せていました。コンテナガーデン展にも多くの方に出展していただき、色とりどりの花が見事に咲き誇り、さらにホフマン館バラ園のバラをはじめ、多量植物の花も色彩豊かに咲き始め、来場者を楽しませていました。6月には日本とアメリカの多種の紫陽花が咲き、煉瓦窯とのコラボレーションが写真スポットとなっていました。秋にかけても色とりどりの花が見られると思いますので、ご来館お待ちしております。



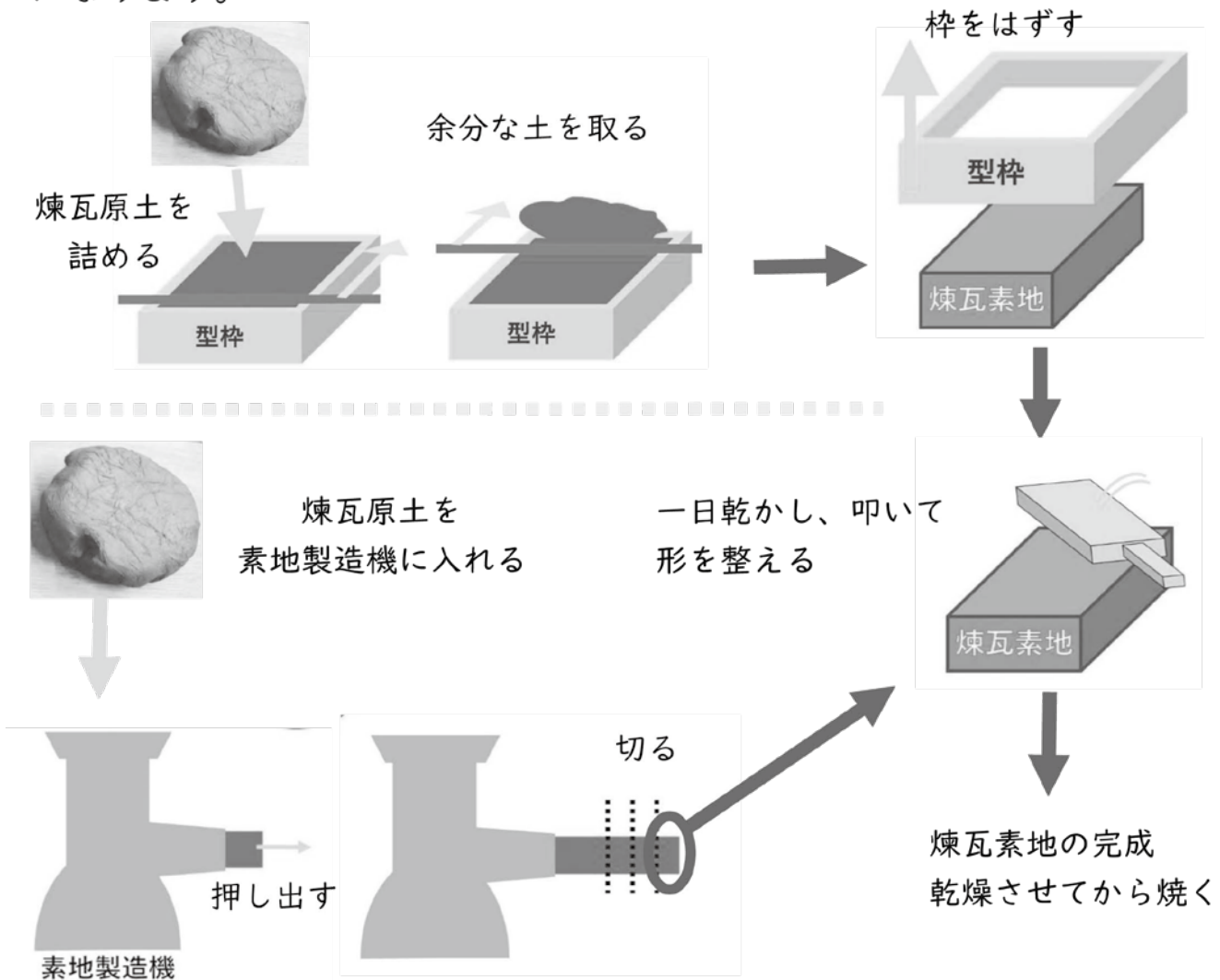
野木町煉瓦窯のおはなし その⑩

赤煉瓦(普通煉瓦)は、粘土と砂を練り混ぜたものを一定の形に焼き固めてつくられています。

下野煉化製造会社では、創業当初は手作業で煉瓦の形をつくっていました。木製の型枠に原土(粘土と砂を練り混ぜたもの)を叩きこみ、はみ出した余分な原土を切り取ってから型枠を外します。これを一日おいて表面が乾いたものを板で叩いて形を修正すると、煉瓦素地(焼く前の煉瓦)の完成です。

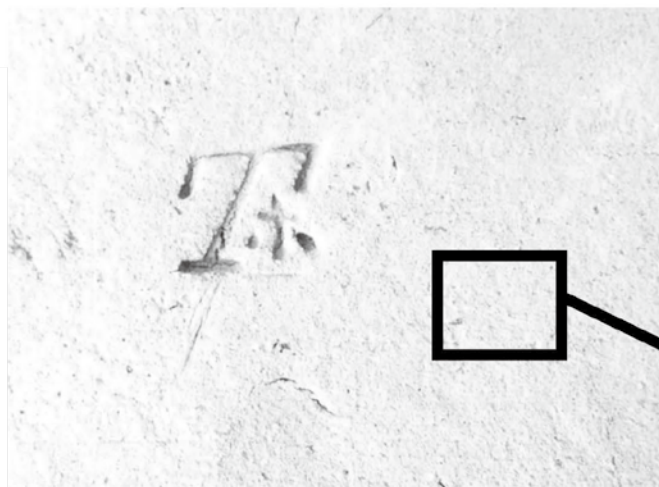
明治20年代半ばには、下野煉化製造会社でも機械を使った煉瓦素地製造を始めました。素地製造機で練って押し出した煉瓦原土をピアノ線で切り、一日乾かしてから形を修正して素地が完成します。

できあがった煉瓦素地は十分に乾燥させたのちに煉瓦窯で焼き、赤煉瓦になります。

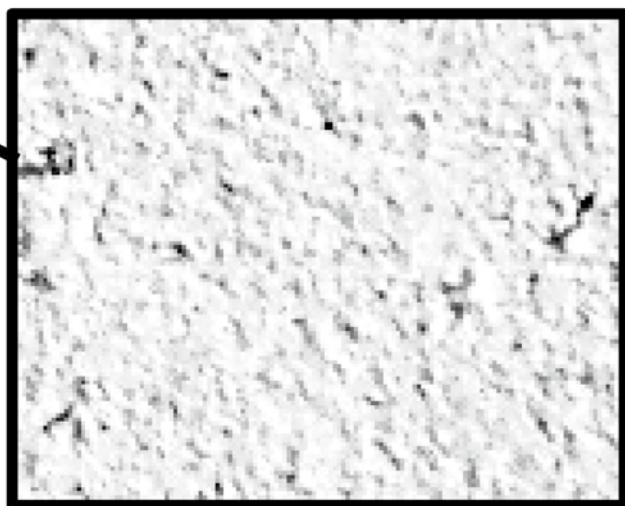


手作業で成形された煉瓦か、機械成形された煉瓦なのかは、表面を見るとわかります。手作業で成型された煉瓦の表面はなめらかですが、機械成形ではピアノ線で切ったままになるためざらざらになります。

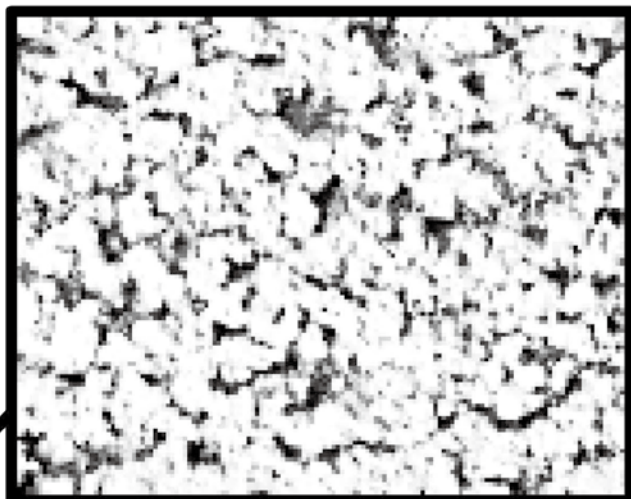
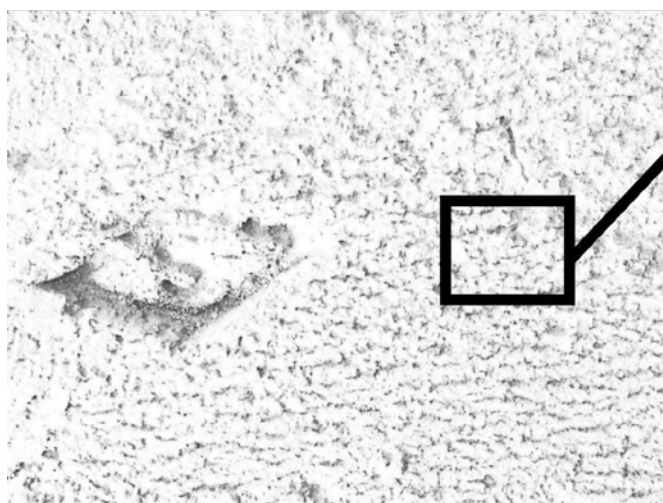
(つづく)



手作業で型抜きした煉瓦。
表面が比較的なめらか



機械成形した煉瓦。
ピアノ線で切ったままなので
表面がざらざら

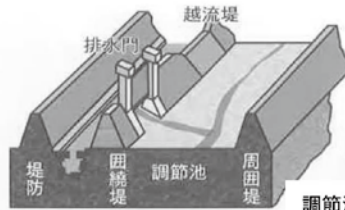


自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑩

渡良瀬遊水地の治水 ～洪水を調節するしくみ～

普段

普段は湿地や草原が広がっている

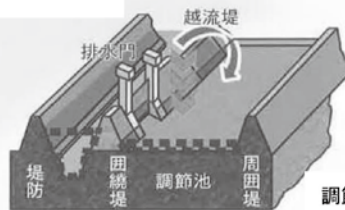


排水門：全開

調節池内に流れる河川の排水のため排水門は全開にしておく。

洪水発生時

洪水時には越流堤より調節池へ水が流れ込み下流に流れる水量を減らす

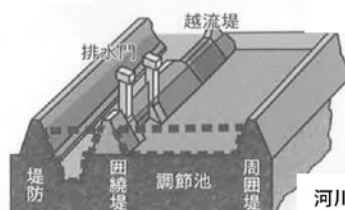


排水門：全閉

調節池に水を貯め込むために排水門を全閉にする。河川の水位上昇より越流堤から調節池へ洪水を流入させる。

洪水中

洪水が収まるまで調節池に水を貯め込む

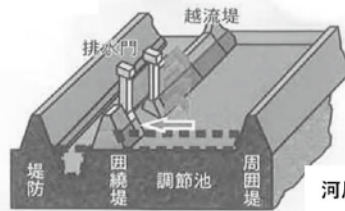


排水門：全閉

河川の水位が下がるまで排水門を全閉のままにし、調節池に水を貯め込む。

洪水後

洪水が収まったら排水門を開けて調節池に貯まった水を川に流す



排水門：全開

河川の水位が下がり調節池の水位と同じになったら排水門を開け、調節池に貯まった水を川に流す。

参考文献

「渡良瀬遊水地」より
利根川上流河川事務所発行

渡良瀬遊水地の近況

渡良瀬遊水地では日本で確認できる野鳥の約半分の260種が確認されています。5月中旬には新たな発見と思われる珍鳥マダラチュウヒが飛来し、数百人の野鳥カメラマンが集まりました。近年では新たに発見される野鳥も数種飛来し確認されています。

遊水地の場所の特定は困難ですが、夏の夕方は壮大なツバメのねぐら入りやムクドリの大群が見られます。涼しくなる夕方渡良瀬遊水地に出かけてみてはいかがでしょうか。

野木町交流センター

(野木ホフマン館)

開館日：火曜日～日曜日

9:00～18:00

(国民の祝日開館、翌平日閉館)

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667